

年次報告書

manazashi annual report 2021

2021

NPO法人子どもへのまなざし



2021年度を 振り返って

活動をスタートして13年。振り返ると、これまでも毎年それぞれの事業を丁寧に見直し、楽しみながら新しいことにチャレンジすることの連続だった。そして2021年度は、さらに変化が大きく、1年間ずっと全速力で休みなく走り続け来たと感じている。

当団体の活動と発信するメッセージは活動をはじめた頃と違って広く深く影響力を持つようになってきた。

新規事業の「市立病院職員の福利厚生」の位置づけの病児保育は、まさにこれまでの活動を見てくれた人からの名指しのオファーだった。行政や他団体との会議でも、団体としての意見や見解を期待される立場になってきていると感じる。

それは時に「今の世の中で当たり前になってしまったこと」に一石を投じる役割を担ってきた。実際、当団体が目指す

「子どもが真ん中の世の中」は、まだまだ道のりは遠い。まずまず「大人の都合」や「大人のよかれ」が溢れていると感じる。

これまで共に活動を創ってきたのは、紛れもなく「子育て真っ最中の親たち」である。

しかしながら、子育てサービスが充実すればするほど、子育て当事者がお客様化してしまうことを危惧している。子育てする中で迷うことや、モヤモヤする自分の気持ちに気づくことなく、忙しくエスカレーターのように通り過ぎてしまっているのだろうか？

コロナ禍で子育てひろばは、すべて予約制。一緒に過ごした人と次にいつ会えるか分からない。

気軽に相談できる子育て仲間と出会う機会が激減している今、ひとりでの声を出

せずに苦しんでいる人に出会いたいと活動を続けてきた。子育て中の母たちの情報収集がコロナ禍で一層SNSに頼らざるを得ない今、この場を必要としている人に出会うためのアクションにも悩む1年だった。

2021年の事業方針は「子どもがそび育つ居場所」をたくさんの人を巻き込んで創り続けるとした。

いくつもの新しい企画を立ち上げる中でいかに人を巻き込んでいくかを考えながら取り組んできたが、実は「巻き込む」ためのよい方法がある訳ではなく、自らが誰よりも楽しむ、その本気度が試されているのだと気づくことが出来た。

当団体の強みを活かし、大人も仲間と共に「場づくり」を楽しむことこそが欠かせないのだと改めて感じている。

代表 中川ひろみ



子どもを真ん中に考える社会へ あなたと一緒に考え続けたい
2021年度にまなざしが取り組んだこと

あそびは子どもにとって生きることそのもの

子どもが主人公の居場所！



プレーパーク
なかだの森であそぼう！

とことん仲間ととことんあそぶ



野の保育「まゆのや」

大きな家族のようにならに遊ぶ



外あそび自主保育サークル
「はだかんぼら」の支援

あそび出せ！ビギナー/マスター



冬をあそぼう！がきんちと団



冬をあそぼう！がきんちと団

川をあそぼう！がきんちと団



川をあそぼう！ちびと団



野あそびの時間



親子であそぶ時間

出張プレーパーク



あそびの時間をいかに増やすか

あそびで元気にからだを動かす



わらべうたの時間

子どもの育ちを社会で支える



プレーパーク勉強会

一人ひとりの人と考え続ける



地域の医療を支える



日野市市立病院内
病児一時預かり事業

地域をあそび場を自分たちの手で



仲田の森系公園等
清掃管理

あそびの写真を展示



子どもを真ん中に困った時を支援する



協働事業

共に地域を創る

「フリースペース「たけのこ」は現場も運営も昨年から力を入れて準備をしてきましたね。4月に立ち上げてから2か月がたちました。今のお気持ちは？」

ひろみ もう、本当に「まなざし」のメルマガだけでしが告知してないのに、こんなに問い合わせが来て、新しい出会いがあるとは想像もしてなくて。
本当に、出会うべくして出会ってるなあという感じ。だから、なんか今、本当にドキドキしてる。

— どういう感じのドキドキなんですか？
ひろみ 親子で居場所がなかった人が、ここを居場所にしたと言ってくれて、その人たちの居場所になれてるのかな？って、
デリケートだからね、とても。もちろん、親は逃げたいけど、なかなか子どもがその気持ちにならないこともあるし、もつとしたい方が良いのかなと思うけど、そうすると忘れられちゃったって思う人もいることも分かって、たけのこの子どもたちはね、1回見学に来た人が、また来るかなあ、今度いつ来るかなあってすごく気にしてるの。
なんか、そこへんの距離感みたいなものもドキドキする。もちろん、その子のペースがいに決まってるから。

ただ、声かけないのも、声かけるのもドキドキする感じ。
もう数々、学校に行ける、行けない？学校じゃなかったらどこがある？って悩んで来てる人たちが、ここも「行かなくちゃいけないところ」じゃ意味ないしね。「行きたいところ」にならないと、なかなか、悩ましいですね。
だから、今日はどうか、あ、来てくれたね、ああ、会えたね、顔が見えたねって一日一日。
でも、来ていろいろあるからねえ。

— たもつは？ どういう？
たもつ あっという間の2か月でした。始めるまでは来た子どもと毎日何をするんだろうとかすごい悩んでた。でも、始まつちやったら、子どもたちのやりたいことがすごいあって、今行きたいところとか、やりたいことが、本当にその子、その子でみんな違うから。
毎日、どうする？って、一瞬に過してただけで1日があっという間、すくなく面白。毎日見ると、子どもたち一人ひとりが一日一日、関係性も変わって行って、成長がわかって、今日やったことをもとに、もつとこれやってみたい、っていうのがどんどん出てくるのが、すごく面白い。

学校に行くとか苦しくなる人にも出会うようになるには

ひろみさんはいつ頃からフリースペースをやりたいと思った？

— 一年前から、来年（2022年度）はなとかせねばという思いはすくなくあった。たとえば、野外保育「まめのめ」卒園児の卒業というのには三年生まで、だけど、その後もここで過ごしたい子もいて、まめのめに来たいってほしいお手紙はしてくれるんだけど、いやでも、お手紙いじやないでしょ、本人がいたい時間を通さないとだめだから。
あとは、金曜日には朝から小学生がいっぱいいて、他の曜日はみんなどうしてるの？って一日じやダメなんじゃない？って、目の前で、つがやきがほろほろ泣いてく

るの、子どもだったり、お母さんたちから、本当にたくさん。

正直、フリースペースを開くなんて、10年前は全く考えてなくて（笑）。
まめのめを卒業したら、地元小学校と折り合いをつけながらやるのがいいだろうなって本当に思ってたんだけど、小学生の居場所をやってほしいっていう声はずっとあったんだよね。

でも、いやいやとんでもない、学校に口を出さずような立場ではないし、学校に行ったらそりゃあ苦労はあるけど、そこで地域をよくしていくっていうふうな大人みんなが動けるように、思ってた。学校に行くって苦しくなる人にもこんなにも出会うようになると思っていなかった。
で、それが、ニュースで流れてくることと森の状態がひどくなり、全国的にもそうなんだよね。とは言っても、フリースペースは中途半端に手を出せる事業じゃないのはわかっていたから、1年間も勉強して思ってた。

学校に行けるように背中を押すのが良いと思っていた。

— 勉強されてましたもんね。

ひろみ うん。学がまでは、学校に行けるようにもつと背中を押した方がいんじゃないかなと思う部分もあったんだよね。一人一人に力があることは分かってるし、森で過ごす姿を見て、みんな魅力的だっと思ってたから、森に来て楽しんでるんじゃないかと思ってたんだよね。あ、そうではないんだねというの、子どもを見たり学んだりしながら気づいてきた、という感じかなあ。

— たもつは昨年度、思ってたこととか、考えていたこととかあった？
たもつ 本当に金曜日の朝一からの小学生が増えたと気づいて、金曜日だけじゃ、とっ

たもつ あはは。いろいろありますね。思ってたより、いろいろあるのよ。一日一日がドラマチックな感じ。

— たもつは？ どういう？
たもつ あっという間の2か月でした。

始めるまでは来た子どもと毎日何をするんだろうとかすごい悩んでた。でも、始まつちやったら、子どもたちのやりたいことがすごいあって、今行きたいところとか、やりたいことが、本当にその子、その子でみんな違うから。
毎日、どうする？って、一瞬に過してただけで1日があっという間、すくなく面白。毎日見ると、子どもたち一人ひとりが一日一日、関係性も変わって行って、成長がわかって、今日やったことをもとに、もつとこれやってみたい、っていうのがどんどん出てくるのが、すごく面白い。

学校に行くとか苦しくなる人にも出会うようになるには

ひろみさんはいつ頃からフリースペースをやりたいと思った？

— 一年前から、来年（2022年度）はなとかせねばという思いはすくなくあった。たとえば、野外保育「まめのめ」卒園児の卒業というのには三年生まで、だけど、その後もここで過ごしたい子もいて、まめのめに来たいってほしいお手紙はしてくれるんだけど、いやでも、お手紙いじやないでしょ、本人がいたい時間を通さないとだめだから。
あとは、金曜日には朝から小学生がいっぱいいて、他の曜日はみんなどうしてるの？って一日じやダメなんじゃない？って、目の前で、つがやきがほろほろ泣いてく

にもならないなあというの。

「みんなが学校に行っている時間は、自分には家から出ないで、学校からみんなが帰ってきた時間から、外に出て遊びに行く」っていうのをある子から聞いた時に、苦しいよな、それ、って思ってた。なんか、そうじゃない時間、通し方がいいなあ、って思ってた。

— 好きな自転車に乗っちゃいけない、とかね。
たもつ みんなは学校に行っているのに、自分だけが好きなことをやってはいけないと思ってる。だから、以前は森も午前中は来なくて、放課後から来るようにしてたみたいで、それは苦しいよな、って思ってた。そのうちに午前中から来るようになったけど。

— 森で通しす子たちの様子を見て、「ここはいいんだな」っていう雰囲気を感じたんだと思う。大人も「なんで学校に行かないの？」って言わない雰囲気があるからな。

— 確かに森じゃ大人も聞かないしね。ある場所そこいら大人をちらっと見て「僕の嫌いな人だ、あの人」って、ある子が言っていた。
いや、知らないはずだけどなと思ったり、前に児童館で「何で朝から来てるんだ」ってある人に言われたから、嫌いだって言う大人がどう思っているかっていうのは、子どもはずっといい感覚だから。

— たもつに聞きたいこともあって。
たもつ すいし事業持ってるじゃん？ひろみさんから、フリースペースやるって聞いて「え？また事業増やすの？まじか？」って思わなかった？
たもつ ああ、あんまり思わなかったかなあ。え？そうなんだねえ。本当？（笑）

フリースペース「たけのこ」をはじめて

地域に、子どもたちがあそび育つ居場所として「プレーパーク」を開業して13年。2、3年前から週1回の開催日に「今日はどうしても学校に行きたくない」「学校に（行きたくても）行かない」という子どもたちと出会うようになってきました。その理由は子ども自身に聞いてもあいまいで、なかなか言葉にしてくれないものです。けれど、プレーパークで遊びながら時折つぶやいてくれる言葉の中に傷つきややりきれなさを感じてきました。学校は心が折れてまで、まして命を賭してまで行かなくてはならない場所ではありません。2021年10月に文科省より「子どもの自殺が31%増加、不登校も8.2%増加した」との発表がありました。今こそ、学校でも家庭でもない、多様な学びを保障する第3の居場所としてこの4月より西平山にフリースペース「たけのこ」を開業しました。大人のよかれで埋め尽くさないことをモットーに、ここで過ごしたいと言ってくれた子どもたちと試行錯誤の日々を過ごしています。今回は、たけのこの大人として毎日子どもと過ごしている当団体代表のひろみさんとプレーリーダーのたもつに改めて今感じている想いを聞きました。

森に出会わなかったら、家庭内殺人事件が起きていた！あるお母さんのつぶやき

— フリースペースは公的補助金が出ないので、事業の運営やスタッフの確保など、経営を成り立たせるのってすくなくハードルが高いじゃないですか。
— このフリースペースは今までやってきた事業の中で、一番ハードルが高い事業だと思ってます。しかも、まなざしは既に他にもたくさん事業をやっている。それでも、やるべきだった心が決まった瞬間って、あったんですか？

— 私はお母さんのつぶやきがきっかけかな。「森に出会わなかったら、家庭内殺人事件が起きていた」っていうつぶやきは、すくなくしつと来た。そんなに一人で抱えていたんだね...っていうのがね。
— あとは、まめのめでは、あんなに生き生き



していたのに、入学したら顔面みたくなっていた顔を見てもう無理だなんて。あれだけのびのびしている子はいなかったのに、どうして、こんな顔になっちゃったんだろう、というのがすごく大きかった。もう、この子の顔を見て見ぬ振りできないよ、だって、親子で困っているんだもん、行くところがなくて。

そういう子たちを抱え込みたいわけじゃないの。ここに来ればそれでいいよ、ここに来れば幸せだからね、っていうつもりも全然なくて。だけど、立ち止まったり、次のためにパワーが必要な時に、一人じゃ元気がないじゃない。仲間がやっぱり必要で、だから、毎日来なくても、少しの間来れなくなってもいいの、つながっている感じがすれば、独りじゃないよっていう場所は無いと困るよなっていう感じ。



ああ、その感じ、分かるなあ。た プレーパークはプレーパークでももちろん必要なんですよ。

いろんな子どもが交わり合う場所、っていうのは必要ではあるんだけど、あの子たちには、それだけじゃなくて、やっぱり他の場所も必要。それはたぶん、プレーパークでは補えないなっていう感じですかね。

なんか、プレーパークの方が、より逃げ場所が多い。大人の逃げ場も結構多くあるし、ここは、そこまで逃げ場が多くないから、自分も向き合わなくちゃいけないし、友達とも向き合わなくちゃいけない感じが、プレーパークよりも多いんじゃないかなって思う。

ぼろぼろと子どもたちから出てくる気持ち

ひ 確かに仲間を求めているよね。一人数は全部で10人ちょっとかなあ。って自分たちで言ってる。

でも、11人目の人がどうしてもここがいて言ってる、みんなどうする？って聞いたら、「どうしても言って言うんなら、入れてあげようかな」って言ってきてる。

なんかね、子どもたちがぼろぼろっていうの。「私は学校いやなんだけどさ、無理なんだけどさ、〇〇ちゃん、どう思うの？」そしたら今度は相手の子が「私は前は行ってたんだけど、今は学校が怖くなっちゃったんだよね」とか、ぼろぼろって。

「たもつもフリースペースやるべきって、心が決まったときって、あった？」

た やるべきだよって思ったのは、やっぱり去年の1年間ですよね。あの1年間があったかなあ。

まめのめ卒園児との日々だったり、金曜日の午前中の小学生の姿だったり。

ひ 去年は森でも悩んだんだよね。学力が下がっていくと、学校に戻りにくくなるんじゃないか、ひとりがなとかに触れるようにした方がいいんじゃないかって思った、ひらがなの積み木を森で出してみたりとか。

プレーパークの横にね、建物があったって「こはぼくたちの城」みたいでできれば森のそばでできたかもしれないんだけど。プレーパークのついでじゃなくて、この子たちに向き合います、という状態が必要で。

学校行ってない、よし、じゃあ、ここあるよっていう居場所をもう作らないといけないなっていう気持ちかな。

だから、子ども一人じゃだめだし。じゃあ、森の開扉を毎日したらどうなのかなと考えると、それはまた、ちよっと違うなあ。プレーパークだけだと、ちよっと足りないなあって、ものすごく感じた。

ちゃんと場があって、受け入れる子たちのメンバーも固まってっていうのがいいんだなあって、去年1年間ですっかり感じるようになったかな。

「まなざし」だったら、プレーパークを毎日開催するっていう選択もありましたよね。それでもプレーパークの毎日ではなく、フリースペースを選んだのはなぜですか？

ひ やっぱ「この子たち」に向き合うことが今、絶対に必要だっていう気持ちかな。だれでもよそでっていう、いろんな人門戸を広げておく場ももちろん必要なんだけど、「君たちと歩きます」っていう時間も場所もないと。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

プレーパークでは足りないっていうのは仲間感？居場所感？

た プレーパークって多分、誰かのものがあるけど、誰のものでもない、というか、さっき言ったようにフリースペースだったから「小学生の居場所」、「自分たちの場所」という確固たる雰囲気があるけど、プレーパークだとそうならないかな。

不特定多数の大人の目にもさらされるし、

この間、ある高学年の子が爆発して、トラブルがいくつも重なり、うまく自分の気持ちが出せない感じで、最後はみんなの前で川でパァって転んじゃったの。

もう、悔しくてリユウクをみんなの前でパァンパァンって叩きつけて、パンパン踏んで悔しかった気持ちを表すの。

そしたら、新しく入った2年生の女の子が

森にも来たことなくて、みんなとの関係なんてまだ全然できていない子なんだけどその爆発しちゃった様子を見て、「私、わかるなあ。いやなことがあった時、私は泣いたりタイプなんだけど、妹は怒っちゃったりタイプだから」ってつがやくの。

高学年が爆発的に感情を出しているのを目の当たりにすると怖いって思うのかもしれないんだけど「わかるわかる」って言うんだ、2年生なのに……

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

今、俺、毎日忙しいんだよね。

「フリースクール」ではなく、「フリースペース」と名付けたことにも、こだわりがありますよね？

ひ ありますね。スクールは学校で、やっぱり学校に拒否感がある子が多いので、あえてフリースクール、とする必要はないな、という感じ。

学校で大人が覚えてほしいこと、学んでほしいことが用意してある、というイメージができてきているんじゃないかなって。本来は違うと思うんだけど。

それより、子どもの心の中からでてくるやりたいたいことを大切にしたいと思ってる。だから、日々忙しいよね。子どもたちのやってみたいことが、ピヤ〜と広がるから、あれやって、これやって、それやって、もう、ドロドロが大好きな人とそれは嫌な人と、虫が大好きな人とそれは嫌な人と、体力が無尽蔵の人と、そうじゃない人と……って(笑)。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。

「たもつは「プレーリーダーたもつ」ってイメージが強いじゃない？プレーパークじゃなくて、フリースペースってどう思ってる？」

た なんか、全然ちがうことなので、プレーパークは、いつでもだれでも来て遊んで帰っていく「あそび場」の意味合いが大きい場所。フリースペースだと「居場所」なので、もつとちよつとなった感じがあって、同世代の仲間が集まって、その中でこの子たちって成長していくんだなって思ってる。



「大人のよかれ」ってことで俺が気を付けているのは、なるべく、子どもに近い所にいたいってことかな。

大人と子ども、となると上下関係が生まれ、子どもなんだから、とか、大人の言うことは聞いてよとなるけど、そうじゃなくて、「俺も同じ一人の人間」というところにいたい。

子どもに大人になれてっていうのは無理だけど、こつちが子どもに近づくとはいえないと思ってる。こつちはかつては子どもだったから、だから、その気持ちを忘れないで、振り返りして、そつちになつてく努力はしたほうがいいんじゃないかって。

大人って、転ばぬ先の杖じゃないけど、そういうのをいっぱいいっぱい知ってるから



爆発しちゃった高学年の子はその日、不安定だったのね。たもつがいなくて、他の子とぶつかった、いろいろ大変だったんだよね。心の底にはね、「うまくやりたい」っていう気持ちがあるみたい。だけど、うまくできないの、そんなには。

知識で自分で知ったのか、人から教わるのかでだいぶ違うと思う。

「あ、浮かね。」

森でもたもつが、子どもが聞いてくることをうまくかわして答えない、みたいな時があった。さすがだなんて思うことがよくあるなあ。

失敗してダメとか、速回りとかじゃなくて、失敗をした方が知れることがいっぱいあって、より豊かになるんじゃないかな。

「あ、浮かね。」

「そういえば、竹のペンチを川に持って行って、浮かべてみたことがあったよね。」

「た もともと、船を作ってみたのが、いか」



▲最初はペンチだった竹が…。たけのこハウスの裏にある竹林にて。

だを作ってみたくてかという意見があった。でも、その日、川に行きたくなかったAちゃんが「私は竹やぶで、このペンチで寝て寝てから、私は一日ここに居るから、大丈夫。みんなで行ってれば」って言って、でも、他の子どもは一緒にいきたいから説得力はなかった。

それでAちゃんと話したら、ある子がそのペンチを見て「これ、いかだじゃね？」って言い出した。

いかだって、設計図とか書いても本当にどれくらい深くのかとか結構精密にやらないとうまくいかかわからないって…。じゃあ、実験しようって、話になって…。

「えー川まで持っていったの？」

「持ってた(笑)もう、大変だったよ。」

「あ、竹のペンチ、重たいんだよな。すごい重い。」

「リヤカーでペンチと荷物とAちゃんを川原まで乗せてって、そこからペンチをみんな」



で川の目の前まで運んで行って。

で、男の子たちはペンチで川を下るって言うてるから、じゃあ、集合場所は、下流の長沼橋ってなって(笑)

「ああ、男の子はいかだで流れて行く予定ね。」

「そう、川を流れるつもりだから、いかだ組と、荷物運ぶ組に分かれて、結局、長沼橋に着いたんだけど、途中、子どもたちが、こら、ペンチを抱えて歩いて(笑)」

全然浮かなくて、もう、ほんとと重たい荷物運び(笑)。

「たもつは、浮かないかもって言わなかったの？」

「うん、言わない。」

「だって、みんな浮くと思ってるんだもん。実験しようって言うてるし、もうはじめから子どもたちは浮くって、思ってるから。」

で、川でしっかり浮かべてみて、乗って、「あ、浮かね」って(笑)。

「あ、浮かね」って、いいなあ。

「たもつね、一緒にいて、超面白いです。いかだにどんと水がしみ込んで、どんとんぐんぐんって、降りながら、半端じゃないくらい重くって、もう、一緒に運んで死ぬかと思った(笑)もう、ほんと、大変。すっごい疲れた。でも、すっごい楽しいですよ。すっごい楽しい。」

みんな、こんなにうれしい思いをしてきたなんて、分らなかった

「いま話していただいたことも、フリースペースをやってみて気が付いたことかと思うんですけど、他にも気が付いたり発見したりありますか？」

「わたしは、親の会のお母さんたちのつぶやきが…。想像以上に、それぞれの人がそこに立ち向かって、頑張ってる、苦しんで、偏つていて…。大変な思いをしていて、子どもが学校に行っていない、という同じ状況の親でも、気持ちの段階が違う人と話すと、そうならない自分を責めちゃうって、ああ、なるほど、そういう気持ちもあるんだなって。だから私は、決めて分かったつもりにならないっていうのが、すごい大事だと改めて思いました。」

「当事者がお互いに気持ちを出せたり、聞き合えたりする場所に来て、自分は独りじゃないって思えて、お母さんが元気になるっていうのがすごく大事だなって、やってみて思っているかな。」

子どもたちがチームになる上で親の関係も大事だと思ってたんだけど、いやいや、その前の段階からなって。

「お母さんが元気になる…うーん、元気になるなくてもいいのかも。独りじゃない、大丈夫だと思えるようになるためには、やっぱりこういう場所が必要だったんだな、と。みんな、こんなにうれしい思いをしているの」

かつて、親の会をやってみないと分からなかった。

最初は人前で自分の気持ちが出せなさそうだったお母さんも、みんなの話聞いてるうちに、話せるようになってた。だから、誰かの話を聞いてるだけでも、自分のことを話せる元気が出るんだなっていう感じがして。

だから、今度は子どもがたけのこに通ってない人にもオープンにして「みんないらっしやい」の形にしてみたいなって思っているんだ。

学校に行けないことは劣っていることなのか？

「たもつは、フリースペースを始めて気が付いたことある？」

「学校って何なんだろうって、改めて思い始める。」

「たけのこに来ていた子どもを見ていて、学校に行けないことで、漢字が書けない、計算が得意とかはあるけど、この子ども自身も劣っているのかって、そんなことは全然ない。仲間のことを気遣える。この間もバスの中でレクをして、場を和ませたり。それに小さい子の面倒もみれるし…」

「新しい人を受け入れる力もあるよね、自分とは違う感じの人をね。」

「人間力って言う言葉がちょっと軽い気がするけど、そういうのがものすごくあるなあって思う。」

「な、なんで学校に行けないって言うだけで、すごい疎外感があったり、下に見られる雰囲気を感じなきゃいけないんだって。」

「以前、小学校の前を通った時に「前は」の場所の前の通れなかった」って言った子がいて、やっぱり通れなかった場所だからね。」

「この間、ある子が「俺が大統領になったら学校を全部フリースペースにする」って言うって、ほおって置いたら、別の子が「そうじゃないじゃん、学校が楽しければいいんだって」って。」

学校との気持ちの切り分けとかも、みんなそれぞれ違う。もう学校なんて絶対嫌だっていう人と、学校なんて楽しくなってきたから行かなかったという人と、全然違うんだよね。」



▲地域にたけのこを知っていたら機会として「子ども0円食堂」もはじめました。

「ところで、たけのこって卒業はあるんですか？」

「まあ、一緒に歩こうって思って始めた場なので、巣立つよって本人が言う時が巣立つ時だって思う。とにかく人の中で自分らしくいられて、大丈夫って思えるようになったら自然に巣立つかなって思うんだ。」

「みんな、夢はあるんだよね。」

「大統領とかね(笑)。」

「ある子はさ、生物学者になりたいって言うてるんだよね。そんなにびびりたり人はいないっていうくらい、もう生き物に目が輝く子なの。」

「いいね」って言うてくれる仲間に出会えたらいいなって思う。好きなものを追求すれば、どこかにつながるよね。」

「俺は卒業して区切りはこちからつけられないかなって思う。」

「でも、本当に興味があるのを見つけた時どうサポートができるかっていうのは大事だと思うから、今、自分の頭の中の課題はそっちな。」

「さっさと、やりたいことをやるための学力とかが必要じゃないですか。その時に、その」

「子に合った手助けができるかなってことを考えてなきゃいけないなって思う。」

「キーワードは「待つ」かもじゃないね。子どもから湧いてくるものを待つ。」

「確かに、学校に行くっていうのと、やりたいことのために自ら学ぶって、同じに捉えがちだけど、全然違うもですよね。」

「人間誰しも「学びたい」という気持ちって絶対にあると俺は思っている。」

「学校みたいにならなくていいものも学校みたいな方がより身に付くと思う。」

「でも、その学びたいと思ったときに、材料や環境がないと、学ぶことが難しくなると思うから、そこは提示できるものがあつたらいいなあって思ってます。まだ何かがあるわけはないんですけど。」

「やりたいって思ったら早いと思うんだよね。」

先を先をーと用意していくよりまずは、大人も子どももこの場所で幸せに。

「子どもの興味ってどんとん広がっていくだろうから、いつかはたけのこだけで何が用意できるようなことじゃなくなってくるかもしれない。だから外部の人たちの繋がりがすごく大事になってくるのかな。」

「料理って言ったら、料理のプロに会うちゃうとか、大工だったら、大工のプロに会うちゃうとかね。」

「やっていくうちに、子どもたちからふつふつと湧いてくるものが出てきたり、絶対に好きなことや、これは得意とか、これはずっとやっていても飽きないとか、そういうことに出会えると思うんだよね。」

「だから、その時に、大人のよかれが出ないで、邪魔しないことができるかっていうのが、大事になると思う。」

フリースペース「たけのこ」

フリースペース「たけのこ」の名前はひとりひとりと子どもたちが決めた。フリースペースが始まった頃、拠点のある西平山で毎日のようにたけのこを収穫して子どもたちと一緒にコンクリートも突き破る力強さで根っこでしっかりとつながっていることを知ったからその命を。たけのこの子どもたちが日々育ちあう姿はInstagramで配信しています。





あそぶことは生きること
—2021年「子どもの時間」—



あそぶことは生きること
—2021年「子どもの時間」—

子どもが主人公の居場所の設置・運営事業
プレーパーク「なかだの森であそぼう！」



雨天に子どもが止まらなくなり、おぼろげに



2020年度、皆さまに支えられたり、おぼろげに



森に久しぶりのなかだ鍋が通ってきまし



雨にはブルーシートを張って、

大きなプールが出現

2021年度 「なかだの森であそぼう！」

私となかだの森
今年13歳の娘が6歳の頃からずーっと森で遊ばせてもらっているけれど、私は仕事に追われていて来れることはほとんどありませんでしたが、下の子が生まれてフルタイム勤務を辞めたので、時間に余裕がうまれました。
子育てって、とても楽しくて幸せなことなんだけど一人では出来なくて、でも何人もの人と繋がって子育てすると楽しくなるなあと感じています。
娘の思春期にアロマの香りやタッチケアを知ることで私も娘も救われました。私と同じように困っている人がいたら、こんな方法もあるよって伝えたいと、森でアロママッサージをはじめました。
アロママッサージを始めて森を後にする度に「ああ、今日もすごく楽しかった。いいエネルギーをたくさん頂いたなあ」ととても満たされた想いでいっぱいになります。
毎回8〜9種類のアロマオイルを持っていき、マッサージを始める前に選んで頂くのですが、その瞬間が私も楽しいのです。瓶のキャップを開けて手のひらに垂らすと香りが辺りに漂って、とっても気持ちが良いくなります。森の中で漂う香りは何とも自然で本当にいい香り。
私が大人の方にマッサージをしていると、子どもたちもふらっと、お気に入りの香りを嗅ぎに来られます。
マッサージをさせて頂いている時は無心になっていて、頭の上を風が通り抜けたら風に揺れる葉っぱの音が聞こえてきます。すこしい気持ち、森でのマッサージの時間は、私にとっても嬉しい時間です。
(あせしちゃん)



教字でみる 2021年度の「なかだの森であそぼう！」

年間実施回数	中高生の延べ参加人数	屋根を張った回数
72回	0人 ▶ 160人	14回
今まで年間62〜63回の開催でしたが、2021年度は72回の開催で過去最多となりました。祝日にも積極的に開催したことが要因となっています。	5年前の2016年には0人だった中高生の参加者が2021年度には160人となりました。夕方にバラバラとやってくる中高生たち。いろいろな学校からやってくる子どもたちが混じり合う場はまるで異文化交流で、ここでなければ出会えなかった輪となっています。	雨でも開催しているなかだの森であそぼう！では、雨天の場合、ブルーシートで屋根を作り活動します。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、雨天の場合は開催を中止していましたが、2021年度は感染対策に気をつけながら、雨でも開催することが出来ました。



寄付ボックスをリニューアル
寄付ボックスを子どもたちとリニューアルしました。「子どもたちのあそび場づくりを応援してください」とはつきり書くことで寄付が集まりやすくなったと感じています。子どもが自分のお小遣いの中から募金をする姿も見られました。
「仲田商店」も再開し2万円を超える寄付となっています。釘、工具、ロープなどの消耗品を購入させて頂きました。



なかだ鍋の再開
人と一緒に食べる習慣がなくなってしまう子育て環境の中で、「なかだ鍋」の再開を法断。食材は各自カットしてきてもらう、お箸、お鍋の貸し出しはしない、などの感染対策を行いました。
「一緒に食べる」ことは人間の根源的な喜びだと実感した再開となりました。

#学校ムリでもここあるよ
金曜の朝からいつも来る小学生の顔がが増えてきたことで、お互いの関係が煮詰まりすぎずに安心して自分らしく過ごせていると感じています。
黒いビニールで熱気爆ぶくりやブルーシートのパラシートでは飛べるが(表紙の字裏)を体験。
どんぐりコーヒークリヤや星こはんのメニューの相談など、真剣に遊び合う姿は子ども生々生々として、魅力的です。



乳幼児親子と出会うために。
長引くコロナ禍の中で、乳幼児の親子との出会いが激減した2020年度。
この場を必要としている乳幼児親子と積極的に出会うために、絵本シアター「ゆうちゃん仲間たち」の力を借りて、「よちよち」とことこひるろば」を年間を通して開催しました。
参加した方からは「我が子がよく動くので本日は演劇を見せてあげたかったけど、いままでも無理だった。ここではうるさくしても、動いても大丈夫だから安心して参加できた。本当に嬉しい！」という声も頂きました。



バッタの一生 ～まめのめのミーティングから～

新緑の頃からトントムムシやアリ、ダンゴムシなどで、小さな虫たちの存在は子どもたちの世界を豊かにしてくれています。小オオトントムムシを指して「まももも」としても、なかなか上手に飛ばすのが難しいので、飛ばした時の美しさを持ちや手のひらにのせて観察回をすすめていきました。そして何より、観察を済ませた後は、トントムムシを指して「まももも」と呼ぶのが上手です。

「まももも」と呼ぶのを聞いていたのは「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちです。その時、お母さんやお父さんが「まももも」と呼ぶのを聞いて、「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

「まももも」と呼ぶのが上手な子どもたちを褒めてあげたりと、手厚い「まももも」の時間を過ごしていました。

2021年度 野外保育「まめのめ」

まめのめが大切にしていること

子どもの「今」と共に歩む
小学校に行っても困らないように、何が出来るようにと将来の準備をして過ごす幼児期が子どもにとって必要でしょう。やりたいことを夢中でできる、今しかない「子どもの時間」をたっぷり過ごす場でありたいと思います。

子どもを信じて受け入れる

子どもは本来、首つ力を持っています。一人ひとりのその力を信じて、「〇〇ができるようになってほしい」というまなざしではなく、存在をまるごと受け入れる、子どもにとって絶対的な安心の居場所でありたいと思います。

親も子ども育ちあう関係づくり

子育て真っ最中の人たちが、共に育ち合える場を自分たちの手で創りたいとスタートした野外保育「まめのめ」。子どもだけでなく、親同士も、助け合えたり違う意見を聞き合える関係づくりが大切だと考えています。

認可外保育施設へ届け出

4月に認可外保育施設の届け出をして、自治体で定める条件を満たすと、保護者が給付金を受け取れるようになりました。野外保育「まめのめ」始まって以来の順報ですが、認可外保育施設設置基準を全て満たすA判定となるために、試行錯誤がつづくことになりました。これまで大切にしてきた「子どもの時間」を変えることがなく、数々のハードルをいかに乗り越えながら乗り越えることができるのか、まだまだ挑戦が続きます。

子どもたちが安心して過ごせる拠点に

昨年に引き続き、1年間かけて宮川邸の整備に力を尽くしました。たもつと保護者みなさんの活躍が大きいです。全ての荷物を運び出し、分類処分。その量は合わせるとトントムムシ10台分にもなります。本当に大変な作業でしたが、子どもたちが安心して過ごせる拠点となるように力を合わせて全力投球しました。



「ルボ森のようちえん」にまめのめが掲載されました

教育ジャーナリストおたとしまさ氏著「ルボ森のようちえん」が出版されました。野外保育「まめのめ」は新年度スタート直後に取材を受けて、なんと、数ある森のようちえんの中でトップに掲載されました。この取材がきっかけで、同氏著「子育ての選択」大分には、「なかだの森であそぼう」も掲載されました。





2021年度 あそべ！子どもたち！

日常のおそびを広げるきっかけに：
今、子どもの体験不足が叫ばれています。どんなにたくさん自然があっても、どことんあそび時間、一緒にあそぶ仲間がいなければ、豊かな「子どもの時間」にはなりません。
私たちは、山や川であそぶことを特別な体験ではなく、「日常のおそび」を広げるきっかけとして開催しています。プログラムをがっちり決めて、それに子どもたちを出てはめるのではなく、活動で出会った子どもたちと合わせ、企画も柔軟に変化させながら活動は続けていきます。

2021年度は宿泊も復活
2021年度は宿泊も復活させて、ほぼ例年通りに開催することができました。
感染拡大防止の対策として、団体のマイクローバスなどを利用し、公共交通機関を使わないこと、キャンセル料を設定せず、体調が悪い場合、無理なく休んで頂けるようにしました。
コロナ禍で、今まで以上に子どもが群れて自由に遊ぶ場がどこにもなくなっていることを実感しています。

事前学習会を野外で開催
体験を切り売りするのではなく、活動を通じて「子どもにとって本当に大切なこと」を共に考え続ける大人を増やすために、川がきでは、保護者の事前学習会の開催、ちび川ではお迎え後に保護者も一緒に川あそびをする時間を設けるなどの工夫をしています。
2021年度は、「コロナ禍のため、感染予防の一貫として、初めて野外で川がきの事前学習会を開催しました。野外で行うことで、身体を使ったワークも取り入れることができ、まなざしらしい事前学習会になったと思います。」

夢中になって遊び込む姿

夢中になって遊び込む姿を、何年かみていなかったように思う。夜、布団に入ってから「ちびっこ団、たのしいー」と何度も言う息遣い。
保育園から帰るたびに、「今日は先生におこられなかった」と毎日のように口にする。心も体も大きく成長する今、この時期は何を体験するかは親が選ばなければと考えさせられる。

温かく見守っていただけの中、私よりも久しぶりに川に飛び込み、子どもと一緒に笑って楽しむことができた三日間、感謝の気持ちでいっぱいです。
(よったママ/年長の母、ちびっこ団)

とにかく、「楽しかった！」

親として、つい「何したの？どこ行ったの？何が楽しかったの？」と聞いてしまします。でも、どこに行ったか、何をしたらとかは、本人にとっては重要ではないのだと今回は気づかせてもらいました。

とにかく、「楽しかった」という想いと子どもたちの「1日充実してた」という感覚を持つている様子が親としても嬉しかったです。僕たちらしい学校生活の中、リフレッシュになったと思います。子どもが「楽しい」と感じるツールがいっぱいある中、危ないことと隣り合わせの活動、遊びを見守って頂き、無事に帰毛させて頂き、本当にありがとうございました。心の栄養(体も)たくさんいただきました。
(Nさん/小3の母、冬がき)

数字でみる 2021年度のおそべ！子どもたち！事業

自転車を漕いだ距離

111 Km

2020年度の飛び出せ！冒険隊！はビギナー・マスターの走行距離を合わせて111Kmとなりました。
マスターは、雨天中の開催となり、降り続く雨の中を大人も子どもも全身びしょ濡れになりながらのライドとなりました。

ちび川時代から参加しているガキンチョたち

16 人/40人

ちびっこ団に参加している時から次は「がきんちょ団へ！」と楽しみにしてくれている方が多くなっています。今年度は40人中16人の方がちびっこ団に参加したことがありました。

高校生ボランティア

5 人

あそべ！子どもたち！事業に参加してくれる高校生ボランティアは、なかだの森や、あそべ！子どもたち！事業の常連や、野外保育「まめのめ」の卒園児たちです。参加者からも「高校生と遊んで楽しかった！」「自分も大きくなったらボランティアしたい」と声があがっています。



川であそぼう！ちびっこ団
実施日：7月18日～20日
対象：年中・年長
参加人数：18名



川であそぼう！がきんちょ団
実施日：8月2日～5日
(宿泊含む)
対象：小1～小3
参加人数：36名



冬をあそぼう！がきんちょ団
実施日：12月25日～27日
対象：小1～小3
参加人数：32名



飛び出せ！冒険隊！
ビギナー (小3～6年/各14人)
夏日程 実施日：7月22日
秋日程 実施日：11月3日
マスター (小4～6年/14人)
実施日：8月16日～18日

子どもの育ちを 社会で支えよ

日本初のプレーリーダー天野秀昭さんは、「子どもは昔から、あぶなく、きたなく、うるさい存在だった。変わったのは子どもではなく、それを『迷惑』と受け止めるおとなや社会の意識の方だ」とおっしゃっています。今、子どもたちは自由に生きているのでしょうか。私たちは、こんな時代だからこそ、「子どもにとって本当に大切なこと」は何なのかを考え続ける大人の輪を広げていく必要があると感じています。

野あそびの時間

毎日の忙しい暮らし。野外保育「まめのめ」のスタッフで「野あそびの時間」を親子で楽しんでもらいたいです。



「コロナ禍の影響で、家で張りぼつちの気持ちで子育てをしていたり、迷惑をかけないようにと緊張して子育てをしている人、私の子育てはこれでもいいのかとモヤモヤしている人、もっと積極的に出会ったために「野あそびの時間」を開催しました。

ただ野外であそぶだけでなく、はじまりのわらべうたや、食、終わりの絵本、感想を聞き合う時間などを通して参加者同士のつながりや、親自身がホッとできる時間を大切にしました。

「久しぶりにお園から笑えた」「公園だとダメと言ってしまうが、ここではとことん遊ばせてあげられる」「自分だけでは行けない場所であそべた」との声も頂きました。

乳幼児にも、たくさんの「やってみよう」があります。その思いや行動をスタッフが代弁したり、「こんなふうに遊ばせたい」「遊びたいんだ」ということを伝えられる時間にもなりました。

出張プレーパーク

「あそび場」の大切さを知ってもらいたい。地域にあそびの価値を広げよう。

毎年手応えを感じているプレーパーク。出張プレーパークは地域のあそびの価値を広げる機会として開催しています。

子どもにとって「あそび育つ」ことの大切さを知ってもらい、あそびを通して地域の大人同士がつながり、「子どもたちの居場所づくり」に取り組み大人の輪が広がることを願っています。

毎年「川のプレーパーク」として楽しみにしてもらっている大和田運動広場での出張プレーパークは雨天のため中止となりましたがカワセミハウスのオクトーパークエス、旭が丘中央公園での2回を開催しました。



▲カワセミハウスのオクトーパークエスでは、傾斜のある緑地を利用して場づくりをしました。プレーパーク学習会の第1回目でもあったこの出張プレーパークでは外部からもプレーリーダーを招き、実際に場づくりを学ぶ場となりました。

わらべうたの時間



野外保育「まめのめ」の拠点である西平山で元気がいいな子どもも参加できる「お外のわらべうた」があったらいいな、との声から、1年間を通じて開催しました。

申し込み制が定着する中、その日の気分で気軽に参加できるように、教えて申し込みなしの自由参加としました。

外でのわらべうたは挑戦でしたが、木漏れ日、土、落ち葉や吹いてくる風なども、あそびの世界を広げてくれました。

カワセミハウス写真展



2021年度、文化財として改修された桑ハウスで写真展「子どもの世界はオモシロイに溢れている」を開催しました。

当団体の活動で撮影した写真を通して、大人が自分の子ども時代を思い出せる時間を目標にしました。

開催中は桑ハウスの内部を見学したいという方も多く、賑やかな時間となりました。

プレーパーク学習会

子どもが自分の足で歩いて行ける場所にプレーパークを。

子どもが自分の足で歩いて行ける場所にプレーパークを、と初めて企画した学習会です。地域のあそび場づくりに関わる人たちの横のつながりを目的としました。

参加者の真剣に学ぶ姿に、今後互いに学び合っていきたいと強く感じる時間となりました。



学習会3回目には、なかだの森に念願のプレーカーがやってきました。

この日は、講師のかーびー（星野謙）さんから、「今日は子どもたちのやってみたいことを私たち大人がどう工夫したら禁止しない場ができるかを考えながら通す一日にしましょう」という言葉からはじまりました。

- 第1回 10月2日(土) 「はじめての場づくりを学ぶ」
高橋利通氏（日本冒険あそび場づくり協会理事）
※：日野市カワセミハウス上の緑地
- 第2回 10月31日(日) 「プレーパークにおけるリスクを考える」
- 第3回 11月13日(土) 「プレーカーって何？」 ※：なかだの森であそぼう！
かーびー（星野謙さん/移動式あそび場全国ネット代表）
- 第4回 11月21日(日) 「プレーパークの理念から『子どものあそび』を考える」

【2021年度 講師派遣実績】
 12月5日 「こんな遊び場あったらいいな！プレーパーク」主催：多摩市永山公民館 講師：伊藤完
 12月11日 「子どもの居場所づくり講座」主催：日野市中央公民館 事例発表：藤波里佳
 出張プレーパーク ①9/4 雨のため中止 ②10/7 日野市立カワセミハウス「オクトーパークエス」(159名参加) ③11/7 旭が丘中央公園(200名参加)
 野あそびの時間 年間で6回開催 延べ71人の参加 わらべうたの時間 年間で9回開催 延べ47人の参加
 桑ハウス写真展 9/16-9/26 来場者 延べ374名

【2021年度 講演会】桑田愛子さんの講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止。



地域のあそび場を自分たちの手で...

団体設立当初より、自分たちの居場所は自分たちの手で整備しようと除草や清掃を自主的に行っていました。その実績が認められ、2013年4月より日野市から業務委託を受け、「仲田の森蚕糸公園」の公園清掃等の作業を行っています。

受託8年目となり、水路の柵やベンチの老朽化が目立ってきました。また、水路の整備にも時間がかかり、日野市の水路担当との連携も欠かせません。土が固くなってしまふことが課題でしたが、土壌の再生方法を学んで実行したところ、もぐらが土を掘り返している場所が増えてきて、効果を感じています。

清掃などの作業を通じて、地域の方々の「なかだの森」への想いを伺う大切な機会ともなっています。



病児一時預かり室「おさんぽ」の運営がスタートしました

日野市立病院内病児一時預かり事業「おさんぽ」の運営が2022年4月よりスタートしました。

日野市立病院で働く医療従事者の福利厚生の一環として、NPO法人「ホスピタリティ」の「おさんぽ」一時預かり事業を長年担ってまいりましたが、2020年度をもって運営から離れることとなり、当団体に今後を託したいと申し出がありました。

これまで経験のない事業への挑戦でしたが、命を預かる責任感と子育て中の親としての想いはさまざまに悩みながら懸命に働いている医療従事者の現状を知り、また、医療従事者の子育てを支えることは医療体制の維持に貢献し日野市の地域医療を支えることにつながる。ことから、新しい分野への挑戦を決めました。

病児が少しでも安心して過ごせるように。

お子さんの急な発病にも対応できるように、病児の申し込みは当日14時まで受付としています。

「おさんぽ」の保育スタッフにとっては不規則な勤務となることを理解したうえで、あらゆる場面で臨機応変に対応してもらっています。

「おさんぽ」で病児の療育を受けたいというご家族も安心して過ごせるよう工夫や配慮をして、子どもたちの楽しい時間を作りだすための保育スタッフは、何よりの財産です。

一時預かりという保育とは異なる限定的な関わりの中で、何らかの体調不良を抱えて入室するお子さんたちが少しずつ心を開いて笑顔を見せてくれるようになった時や、体調が回復していくのを迎えるのが、日々の業務の中でやりがいを感じています。

「次の時代を生きる子どもたちにとって本当に大切なこと」についての情報発信事業

根底に流れている想いをより深く発信していくか

「今を生きる子どもたちにとって本当に大切なこと」をより多くの方々に伝えるために情報発信をしています。

団体のお知らせや報告だけでなく、読んでくださった皆さんの心がちよつとでも軽くなったリ、一歩進むきっかけになるような広報を目指しています。

2021年度一番の変化は、紙媒体からSNS発信が多くなったことです。Instagramのデザインを変更し、発信頻度もアップしたことで、インスタからホームページにアクセスしてくださった方が増えました。また、「広報心の」や「森のようちえん全国ネットワーク」などで定期的にお知らせを行うことを改めて大切にしました。

SNS発信では、まなざしの根底に流れている想いをより深く発信するにはどうしたらいいのかを考える一年でした。

【2021年度 情報発信実績】
なかだの森通信 (44号、47号)
メルマガ「今月のまなざし」(78人に配信)
Facebook
Instagram
森のようちえん全国ネットワークへの投稿
ホームページの更新

書籍
「ルポ森のようちえん SDG×時代の子育てスタイル」(筑美社)
子育ての「選択」大全 (KADOKAWA)
著者はともに、おたとしまさ氏

「まなざし」があまりに豊かすぎて! Tシャツ販売を事業化しました。

2021年度より、Tシャツ販売を「情報発信事業」として位置づけて事業化しました。

事業化にあたり、価格・送料の見直しも行い、まなざしの活動を広く知って頂くきっかけづくりと、販売利益をなかだの森の活動に還元できるようにしました。

日野市近隣の方だけでなく、北海道や福井県、埼玉県などからもお申し込みを頂きました。また販売を通じて、久しぶりの方からの連絡や「応援している」というメッセージを頂き、その一言一言がやりがいにつながっています。



すべての子どもたちは

今、しあわせでしようか？

—なぜ他団体と協働するのか—

当団体の事業のひとつに「他団体との協働」が入っているのはなぜか、疑問に思う方もおられるかもしれません。

「協働事業って何をしているの？」と聞かれると、どうしても会議に出席しているという報告が多くなります。様々な会議に出席すること自体が目的ではなく、そこに集う人たちと出会い意見交換すること、自分たちが課題だと思っていることを共有することができるという側面を持っていきます。

「子ども一人を育てるには一つの村が必要」という言葉があります。子育ては決してひとりではできません。

同じように一つの団体で出来ることは限られますが、他団体と連携したり知恵を出し合うことで、今まで無理だと思っていたことが実現出来たり、思いがけない視点を獲得することができます。

2021年度も、いくつかの会議に出席しました。その中のひとつである「日野市子ども・子育て支援会議」は、「子どもの権利」について出席者と意見交換する中で、様々な考え方に触れ、改めて協働事業の意味を再認識した会議でした。

昨年4月、「東京都」子ども基本条例」が施行されました。また、今年6月、子どもの権利について総合的に規定された

「子ども基本法案」が国会で可決され、令和5年4月1日に交付されます。子どもは大人と比べると立場が弱く自ら声をあげづらいため、虐待や暴力を受けやすい存在です。しかし、たとえ立場は弱くても、ひとりの人間としてこの社会を構成する大事な存在なのです。

こうした子どもの権利を守るために、1989年国連で「子どもの権利に関する条約」（子どもの権利条約）が採択されました。日本は1994年に批准し、現在締結国・地域は196か国にのぼっています。子どもの権利条約を批准した時政府は、子どもの権利は既存の法律で守られているとして、国内法を整備してきませんでした。今で、「どんな場面でも子どもの権利は守られるべき」という国の法律がなかったのです。

果たして、日本において今まで「子どもの権利」は守られてきたのでしょうか？ 権利という言葉が難しくければ、こう言い換えることもできます。「すべての子どもたちは今しあわせでしょうか？」

条約を批准した当時と比べてみてもコロナ禍で児童虐待通報は増加し、いじめや自殺、不登校など、子どもがますます

生きづらい世の中になっていることは、皆さんも既に感じていることでしょう。

これから「子ども基本法」が施行されれば、子ども自身の権利擁護が実現されるだけでなく、子どもに関わるおとなの意識や行動の変化につながるという期待があります。子ども自身が権利の主体であることを社会全体として認識し、すべての子どもたちのことを第一に考える社会を実現していく。まさに当団体の理念そのものです。

前述した会議で「赤ちゃんの泣き声は子どもの意見表明権と考えます」と発言した方がいました。

0歳の赤ちゃんが「泣く」という行為は、自らの存在を主張する唯一の手段という理解が広がれば、電車の中で我が子が泣かないように周囲に過剰に気を使ったり、周りの人から「泣かせな」と怒鳴られることもなくなるのです。

日野市は2008年、全国的にも早い時期に「日野市子ども条例」を制定しています。しかし、市民特に子ども自身がその中身について理解をしているかといえば、心もとないところがあります。

会議においても、子どもや保護者の理解を深めるための仕組みなどが論じられました。子ども自身が自分の権利について知らなくても、居心地がいいと感じたり、何気なくほろっとつぶやきを出せるような場所があれば、信頼できる大人とつながることが出来ます。

「大切にされた」という経験を通じて自分も生きていいんだと実感するこ

とが、「子どもの権利」を知るといふことになるとは思っています。

そのような共通理解を他団体と協力して社会全体に広めていくことが、当団体の協働事業の本質と考えています。

事務局長 藤浪里佳

※「日野市子ども・子育て支援会議」は、子ども子育て基本法に基づき設置されている会議です。日野市の子ども子育て支援事業計画「新ひのつ子すくすくプラン」等を進めていくにあたり、地域の状況や子育て家庭の実情、子育て当事者の意見などを汲み取ることが出来ます。

「子どもにとって本当に大切なこと」を社会全体で考え続けるために…

子どもが育つ環境づくりに社会全体で取り組むためには、互いの違いを認め合い、支え合う関係が必要です。「子どもたちにとって本当に大切なことを第一に考える社会」を実現するために、同じ目的を持つ個人や他団体と協働します。2021年度はZoomと対面のハイブリットを取り入れる会議が増え、まん延防止対策措置の期間でも様々な会議を継続しようとする努力が見られる一年となりました。

<2021年度の主な他団体との協働事業>

- ・ひの市民活動ネットワーク
- ・一中地区アクションプラン
- ・まちづくり人プロジェクト
- ・子どもの貧困対策推進委員会
- ・子ども子育て会議
- ・仲田小学校評議員
- ・一中地区育成会

たくさんのご支援、ありがとうございます！！

子どもへのまなざしは、認定NPO法人となりました！

NPO法人子どもへのまなざしは、2022年8月30日付で「認定NPO法人」として所轄庁である東京都より認定を受けました。認定NPO法人とは、客観的な基準を満たし「高い公益性を持っている」と認められた団体です。日野市では4団体目となります。2009年6月に設立してから13年、多くの方にご支援をいただいた賜物であり、ここに謹んでご報告いたします。ご支援くださる皆様へ心からの感謝を申し上げますとともに、今後も子どもへのまなざしにご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。これからも「子どもが真ん中に考える社会」を目指し、認定NPOにふさわしい活動を行ってまいります。

寄付金控除について
応援会員会費・ご寄付の最大約50%が戻ってきます！

子どもへのまなざしにご寄付頂いた金額から2,000円を差し引いた額の最大50%（国税分40%+地方分10%）が所得税や住民税から控除されます。例えば、応援会員会費3,000円の場合、500円の控除を受けることができます。正会員の会費は控除の対象になりませんが、正会員会費とは別に寄付金を頂いた場合は、その寄付金額が控除の対象となります。詳細は当団体ホームページに掲載しております。どうぞご覧ください。



収入の部

項目	2020年度 金額(円)	2021年度 金額(円)
自主事業収益	20,202,260	19,707,431
委託料(公園管理)	1,362,000	1,362,000
委託料(病児一時預かり)	0	8,813,020
寄附金	412,807	932,273
会費	614,000	597,000
補助金・助成金	1,196,530	669,440
その他	6,055	19,989
計	23,793,652	32,101,153

支出の部

項目	2020年度 金額(円)	2021年度 金額(円)
人件費	17,003,685	21,385,316
その他の経費	6,223,293	8,599,994
消費税	980,300	1,359,100
法人税等	70,000	383,900
計	24,277,278	31,728,310
収支差額	▲483,626	372,843

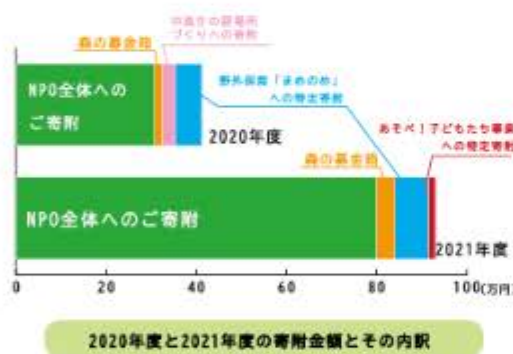
2021年度を振り返って

2021年度は会計規模が初めて三千万円を超えました。新規に病児一時預かり事業を始め、収入支出ともに大幅に増えたことによるものです。新型コロナウイルスは未だ収束の見通しが立たず、現在も感染拡大傾向にあります。この時期、医療従事者を支える事業に新たに取り組むことは大きなチャレンジでしたが、会員の皆様のご支援やスタッフの協力もあり、無事に一年間過ごすことができました。あたたかく見守っていただき、ありがとうございます。

新規事業のために職員の増員で人件費が増えるのは当然ですが、病児預かり事業の予約システムや労務管理システムの導入など、WEBでの作業がしやすい環境を整えるための経費も増えていきます。ただ、在宅ワークが当たり前になっても、オンライン業務だけで全てが解決するわけではありません。今後は、多岐に渡る事業を支える事務局業務を、限られた人材で効率よく取り組むための工夫が必要となります。これからの大きな課題です。

2021年度は、活動拠点がもう一軒増えたことも大きなトピックです。従来の古民家の隣家も、日野市

よかったですという声も聴きました。「ここがとても大事な場所だから」「また来るよ」そんな気持ちの表れと感じ、身が引き締まる想いでいます。



Amazon物品寄附も増えました。いただいたメッセージひとつひとつに気持ちが込められていて、何回も読ませていただいています。中には匿名で送ってくださる方もいます。それぞれの立場で、それぞれのやり方で当団体を応援してくださいませます。一方で、プレパーク中に焚火で遊んでいることに対して、市民の方からご意見をいただきました。プレパーク活動を始めて14年。

空き家活用マッチング事業でお借りすることができました。借契約交渉の最中に家主が変わるといふ貴重な経験をし空き家活用がなかなか進まない一面を知ることができました。二軒の建物を維持管理するということは今後も固定的な支出が増えるということになります。新しい家主様のご理解をいただき、活動を継続することができたのは、本当にありがたかったです。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

コロナ禍の影響を受けつつも、2021年度は寄付金額が昨年度よりも増えました。特にプレパーク「なかだの森であそぼう」の募金箱の寄附が増えています。時々、子どもたちが自分のお小遣いの中から募金箱に寄付をする姿を見かけました。募金箱は、なかだの森に集う小学生といっしょに新しく創りました。募金箱に書いた「あそび場づくりを応援してください」というメッセージが、子どもからおとなまで幅広い年代に伝わったのかもしれない。コロナ禍で子どもたちの活動が制限されたことで、今まで以上に「子どもをあそびは大事。活動の継続を応援したい」と思っている人が増えていくような気がします。遊びに行くところがなくて、なかだの森があつて

いつの間にか当たり前になってしまつて、地域の理解を得るための努力を怠っていたのではないかと自問自答しています。プレパークとはどんな場所なのか、活動の意義や子どもを支える大人の役割を多くの方にご理解いただけるよう、従来の看板を作り替えることを考えています。2021年度からのフリースペース事業は、目の前にいる子どもたちの姿を見て「今、やるしかない」という気持ちだけで立ち上げました。子どもの居場所をつくるには、多くの人のご支援がないと成り立ちません。また、二年連続で新規事業を立ち上げるのは想像以上にパワーがいることです。しかし、皆さんの声なき声が、私たちの力となって背中を押してくれています。なかだの森に遊びに来る。広報物の感想をスタッフに伝える。インスタやフェイスブックに「いいね」を押す。そつと遠くから子どもたちの姿を見守る。どんな形の応援でも、私たちの大きな励みとなっていることをぜひお伝えしたいのです。みなさんからいただいたお気持ちを大事にして、これからの活動に活かしていきます。事務局長 藤浪里佳

～子どもの未来をともに考える仲間たち～



◆ 応援会員 ◆

栗澤 雅富美さん/案浦 聖子さん/伊藤 利枝さん/井上 雅人さん/稲永 裕子さん/羽賀 陽子さん/永井 加奈子さん/永谷 圭子さん/
遠藤 美津子さん/塩山 梨乃さん/奥村 典夫さん/横山 歩巳さん/岡 純子さん/河野 真美さん/柿原 万裕さん/漢人 陽子さん/
丸山 佳代子さん/丸山 洋平さん/岩見 千代子さん/岩佐 裕美さん/久保 栄一郎さん/久保 結さん/久保 七子さん/久保田 茜さん/
宮原 洋一さん/宮田 玲子さん/近藤 裕希さん/金沢 綾さん/金谷 有美さん/原 めぐみさん/古澤 翼さん/幸田 亜由千さん/
高野 久美子さん/合同会社ピヨンドさん/根本 美登里さん/佐々木 隆志さん/佐藤 光昭さん/佐藤 浩子さん/佐藤 順子さん/
佐藤 由美子さん/三好 早穂さん/山田 友子さん/諸星 智子さん/小峰 奈津江さん/小野 美知子さん/松本 景子さん/
森田 ちとゑさん/森田 武雄さん/深澤 真奈美さん/数馬田 実香さん/青柳 拓二郎さん/石橋 鈴子さん/石崎 晶子さん/
石附 真弓さん/前波 奈緒さん/大川 けい子さん/大村 悠季さん/滝 理絵さん/瀧島 奈子さん/瀧島 瑞さん/中村 祥子さん/
長澤 香織さん/塚田 恵子さん/田上 美穂さん/田中 香織さん/土屋 和子さん/藤浦 節子さん/徳久 ウィリアム幸太郎さん/
馬場 明子さん/八木 祥子さん/番匠 達作さん/峯崎 和也さん/北見 みゆきさん/木之下 怜香さん/藍原 尚美さん/林 麻子さん/
鈴木 久子さん/濱 絵美子さん/齊藤 純子さん/高崎 真由美さん/横山 亜紀子さん/磯部 眞吾さん/Flameさん

◆ ご寄付 (物品寄付含む) ◆

伊藤 利枝様/一般社団法人日野青年会議所様/稲永 裕子様/遠藤 美和子様/遠藤 良太様/塩山 梨乃様/奥村 典夫様/
岡村 めい様/菊池 幸子様/久保 七子様/桐山 理華子様/金子 千枝様/幸田 亜由千様/合同会社ピヨンド様/今村 澄江様/
根津 美満子様/根来 憲太郎様/佐藤 由美子様/斎藤 広美様/三上 紗恵子様/山村 誠様/市村 純子様/篠原 仁美様/
柴崎 栄様/波谷 裕子様/小俣 彰男様/杉本 志乃様/青柳 真実様/石坂 亮久様/石倉 彩加様/仙田 恵実様/浅川 彩様/
早川 ふみ様/小野 美知子様/増村 菜穂様/村井 知子様/大竹 久代様/大澤 明恵様/中山 みどり様/中川 純様/中川 哲様/
中島 愛子様/登 景子様/土屋 貴裕様/土屋 健様/土屋 和子様/土屋 實様/内藤 亜希様/八木 祥子様/片岡 久美様/
本崎 俊樹様/野外保育まめめ 保護者有志様/藍原 尚美様/林 さなみ様/柳澤 桂子様/イオンリテール(株)様/
帝人株式会社様(ボランティアサポートプログラム)

「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」2021年度は、24,800円のご寄付をいただきました。
募金箱、書き損じはがき・切手等のご寄付など、2021年度もたくさんのご支援、本当にありがとうございました！

■ 理事

理事長 中川ひろみ

理事兼事務局長 藤浪里佳

理事 中野錦亨 / 松永由希子 /

小俣彰男 / 塚本幸治

監事 本庄 正宏

■ 2021年度職員数

保育:9名 公園管理:3名

病児預かり:11名 事務局:8名

長年共に歩んできた、
まめめ保育スタッフの
伊藤亜紀子さん(あきちゃん)が
2022年3月に逝去されました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。



2021年度も、
たくさんのご支援ありがとうございました！

子どもを真ん中に考える社会へ、これからも皆さんとともに…

◆ 正会員 ◆

伊藤 さおりさん/伊藤 杏子さん/井戸川 雅子さん/遠藤 美花さん/遠藤 美和子さん/遠藤 良太さん/角山 由生さん/
角川 ちひろさん/菊池 幸子さん/近藤 千富さん/佐々木 ふみかさん/安井 清美さん/佐藤 美保さん/佐伯 のどかさん/
佐伯 有香さん/坂 有希子さん/三上 紗恵子さん/山崎 優子さん/山本 祐貴さん/志水 英子さん/篠原 仁美さん/渋谷 貴史さん/
小橋 恭平さん/小俣 実穂さん/小野 絵理さん/大谷 吉美さん/森田 聡子さん/神部 明日香さん/諏訪 和さん/西脇 英子さん/
西脇 大介さん/青柳 真実さん/石坂 あや子さん/仙田 恵実さん/千勝 里美さん/浅見 義孝さん/浅見 久美子さん/
村井 知子さん/大柿 亜希子さん/大神 真美さん/中原 緑さん/中島 愛子さん/田村 美保さん/田部井 絵美さん/渡辺 綾子さん/
渡邊 さちさん/内藤 勘太郎さん/繁木 京子さん/峯崎 由美子さん/北澤 尚子さん/本庄 亜樹さん/本庄 正宏さん/茂木 俊晋さん/
林 さなみさん/柳澤 桂子さん

※異なる 氏名公開可の方のみ
2020年4月1日～2021年3月31日にご支援いただいた方のお名前を掲載しています。

Vision

子どもを真ん中に考える社会へ

Mission

「子どもが主人公の居場所」を創り続けよう！
子どもがいるからつながる「人の輪」を広げよう！

To 2022

長引くコロナ禍だからこそ「子どもの今」を大切にしたい。
大人のよかれで「子ども時代」を埋め尽くしていいはずがない。
子どもたちの小さな声に耳を傾けよう。
そして、子どもひとりひとりの存在が肯定される「居場所」を
たくさんの人を巻き込んで創り続ける。

コロナ禍の中で当たり前前のマスク生活。
プレーパーク「なかだの森であそぼう！」に
あそびに来る幼児でさえマスクを外さない子
が多い。

もちろん、そのこと自体を非難するつもりは
ないけれど、大人の表情や友達表情が見え
ないまま過ごすことのマイナス面を忘れては
ならないと思う。

それは大人の顔色を伺うことが大切と言っ
ているのではなく、本来喜びや悲しみ、そして
怒りなど言葉にならない感情を分かち合うこ
とで人として成長していくはずの子どもたち
が顔の半分をマスクで隠して、豊かな感情の
やりとりが失われてしまう事への危機感があ
る。特に中高生の、本当なら友達の中で育ち
合う時期のマスク生活における弊害は計り知
れないと感じている。

マスクの事を例にとっても、コロナ禍で当
たり前になってしまっている中に子どもたちを
追い込んでいるものがあるのではないかと想
像する。子どもたちの本音は、大人の私たち
には中々聞こえてこない。だからこそ、耳を澄

ませて心を傾けていたい。

それは子どもだけでなく子育て真っ最中
のお母さんも同じだと思う。コロナ禍の中で孤
立している母にこそ出会いたい。いくらネット
の情報がたくさん飛び交っていても、やっぱり
身近な相談相手や助け合える仲間は不可
欠。子育ては決してひとりでは出来ないの
だから。

当団体の活動は、子育て当事者の声に突き
動かされるようにスタートした。

今こそ、原点に立ち返り、目の前のひとり
ひとりの声に耳を傾けたい。そこから次のアク
ションがはっきりと見えてくるはず。

今年度スタートするフリースペースはまさに
そのつぶやきをもう放っておけないという気
持ちからのチャレンジとなる。

「学校に行くのが当たり前」の世の中で、学
校へ行けば行くほど苦しくなる子が居るの
なら、その子に寄り添う大人が、一緒に歩く仲
間が必要だ。決して楽な道ではないけれど、
一緒に一歩を歩き始めてみたいと思う。

認定NPO法人に
なりました！！



認定NPO法人 子どもへのまなざし

【住所】〒191-0055 東京都日野市西平山4-18-12
【TEL】042-843-1282 (月～木 / 10時～17時)
【E-mail】info@manazashi2009.sakura.ne.jp
【Web】<https://manazashi2009.org/>